


ふるさと財団「地域再生マネージャー」情報

1. 基本情報

ふりがな	くにひろ じゅんこ			
氏名	國廣 純子			
所属	株式会社LOCAL SUSTAINABLE PROJECT / 武蔵野美術大学建築学科			
役職	代表取締役社長 / 教授			
活動エリア	池袋北口、調布市東部地区、呉市、与那原町ほか			
連絡先	住所		〒	
	電話番号			
	メールアドレス	code.m.fool@gmail.com		
キャッチコピー	プロジェクトの面的効果を最大化し、まちの経済に噛み合わせていくプロセス構築・成果づくりをお手伝いします			
自己PR	まちづくりのノウハウは各地でオープンにされ、全国的にも情報・視察交流が活発になっており、日本全国の色々な事業の経験が活かしやすい環境にあります。その上で、自分たちの直面する地域にどのような事業を応用し、地元ならではの立て付けて良い波及効果を作っていくのか、それぞれの場所に合わせたきめ細かな長期的支援というものが重要になってきました。そこでは、単純な経験値の応用だけではなく、その街に住まい活動するひとがどのように『まち』に関わり使う意思決定があるのか、彼らの日常のジャーニーを解像度高く捉えて施策を組み立て、仕掛け、公共と民間で協力の関係を築くことが必要です。新しい知恵や事業を取り込む時に、固定観念を破棄し、適切な座組み、人材の取り込みを達成し、まちに関わりたい人を増やしながら確実に成果を上げていけるためのお手伝いをさせていただきます。			
関連ホームページ	名称	アドレス		
	武蔵野美術大学建築学科 WEBサイト	https://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/arc/faculty/kunihira_junko/		
	Lit.Link SNSリンクページ	https://lit.link/localsustainableproject		
	地域に残されたものを魅力に変えて活かし、必要な投資を呼び込むマネジメントを(経産省)	https://www.meti.go.jp/policy/sme_chiiki/town_planning/machigenki/column/04_kunihiro.pdf		
地域協同の経験値を重ねる(三田評論)	https://www.mita-hyoron.keio.ac.jp/crossroads/202203-1.html			

2. 略歴・受賞歴

略歴・受賞歴	1976年	広島県呉市生まれ
	1995～1999年	慶応義塾大学経済学部在学(マクロ計量経済学・統計学専攻)
	1999～2003年	日本銀行調査統計局 統計専門職(物価統計調査、統計企画、国際統計TA)
	2003～2007年	東京理科大学工学部二部建築学科在学(建築意匠設計専攻)
	2007～2008年	三分一博志建築設計事務所(犬島アートプロジェクト、三輪窯Ⅱ担当)
	2009～2012年	北京新領域創成建築規劃設計有限公司 副社長、国際プロジェクト部長兼任(内モンゴル自治区王府広場、西安阿房宮遺跡公園及都市計画)
	2010年～	都市研究室 hclab.設立(現職)
	2013年～	青梅市中心市街地活性化協議会タウンマネージャー着任(2023.3任期満了)
	2018年～	あきる野市五日市商和会タウンマネージャー着任(2024.3任期満了)
	2019年～	豊島区池袋平和通り商店街タウンマネージャー着任(現職)
	2020年～	日野市商店街振興事業アドバイザー着任(2023.3任期満了)
	2021年～	調布市まちづくり審査会会長(現職)
	2022年～	調布市都市マスタープラン策定検討委員(現職)
	2023年～	広島県呉市タウンマネージャー着任(現職)
2024年～	武蔵野美術大学建築学科 都市まちづくり研究室(現職)	

3. 取組分野

● 観光	(職住近接者の市街地開業集積を支援することの延長として、移住のフックとなる観光事業の効果的な活かし方 ソフト面からの地域イメージ向上に貢献する事業支援など)
● 移住・定住・関係人口	()
● 農林水産業	()
● 起業支援	(創業支援、創業時の物件活用指導助言、空き店舗の活用支援等)
● まちなか再生	(中心市街地活性化基本計画の策定、中心市街地活性化協議会の運営、まちづくり会社の設立、ソフト事業/ハード事業の実施、空き店舗対策事業の面的推進、市街地再開発事業の推進検討等支援、文化財調査や保全活用事業支援、広報やプロモーションなど地域事業効果を最大化するための地域マーケティング)
● 集落再生	()
● 環境	()
● その他	()

4. ふるさと財団での実績

外部専門家(活用助成)	◆2021年度～22年度 東京都あきる野市 東京五日市せせらぎ暮らしプロジェクト
-------------	--

5. 取組内容・実績

取組内容・実績

【① 青梅市タウンマネージャー(2013.4～2023.3)】

(1) 事業名: 青梅市中心市街地活性化推進事業
 (2) 対象地: 青梅市(旧青梅市街地)
 (3) 事業目的: 青梅市のまちなか再生を進めながら、空き店舗の面的活用や近代化産業遺産建築の再生活用などのコアな地域投資をまとめ、地域全体の開業者を増やし、まちのイメージアップを図る
 (4) 事業内容:
 ① 中心市街地活性化基本計画に位置付ける事業企画・推進、② 株式会社まちづくり青梅設立・経営・スタッフ育成支援、③ 青梅織物工業協同組合の近代化産業遺産群の登録有形文化財申請・調査・所見作成、④ 建築プロジェクト開発「青梅麦酒(西沢大良)」「ブックカフェ(菊地宏)」「シネマネコ(池上碧)」「青梅駅前再開発プロジェクト(南條洋雄+吉良森子+池上碧)」、⑤ まちづくり会社事業として面的空き店舗調査をしながらのマッチング事業「アキテンポ不動産」・駅前買い物場所消失対策としての「おうめマルシェ」の立案実行⑥ 青梅冬の映画祭、東業会イルミネーション、久平稲荷神社例大祭りニューアル、青梅プロジェクトマップ、青梅シネマ倶楽部、おうめマルシェ、都市デザイン講演会など多数のイベントも立案実行
 (5) 事業成果:
 『アキテンポ不動産』事業により10年間で130件の開業増加させ、『おうめマルシェ』事業の相乗効果も相まって市街地の面的再生を達成。機能不全に陥っていた不動産市場が活性化し、開業が自立的に生まれてくる循環が回復し、現在も開業増加が続き、既存商店の廃業をリカバリーしている。事業成立不可能と言われた駅前の再開発東西地区の推進、市営プール跡地活用の推進にも寄与。

【② あきる野市五日市タウンマネージャー(2018.10～2024.3)】

(1) 事業名: 五日市商店街リノベーション事業(東京都商店街リノベーション事業、ふるさと財団地域再生マネージャー事業)
 (2) 対象地: あきる野市五日市地区
 (3) 事業目的: あきる野市五日市のまちなか再生の推進＝空き店舗の面的活用や地域の賑わい向上をまとめ、地域全体の開業者を増やし、まちのイメージアップを図る
 (4) 事業内容:
 ① 五日市まちづくり協議会の設立・運営推進、② 五日市活性化戦略委員会の改革・事業見直し・人事刷新等、③ 定期刊行物『五日市まちづくり通信』の創刊・市民記者の育成・配布オペレーションの確立、④ 空き店舗空き家の面的調査の上、定期開催事業『東京せせらぎ暮らしプロジェクト まち歩き物件見学会』の立上げ・在住建築士にノウハウ供与して運営者育成、⑤ 建築プロジェクト開発「coffee emerson/co-working rooftop akigawa river(伊藤暁)」
 ⑥ 五日市ほしぞらシネマ、五日市すろふんど通信、空き店舗活用講座、あきる野ダイアログなど多数のイベントも立案実行、⑦ 五日市まちづくり協議会の設立支援、運営・ディスクロージャーの伴走支援
 (5) 事業成果:
 企画した『空き店舗見学会』により5年間で五日市地区に45件の開業増加させ、エリアの面的再生を達成。事業再構築不可能と言われたパル期に頓挫した駅前整備計画の再起動にも寄与。着任時に開始した地域メディア「五日市まちづくり通信」は市民記者の育成から自治会組織への配布回覧などの根回しも功を奏し、五日市エリアの創業支援のPR媒体ともなり、地域全体が新たな開業者が増加していることを認識でき一大メディアとして現在も隔月刊で自立運営発刊中。

【③ 豊島区池袋平和通り商店街タウンマネージャー(2019.10～現職)】

(1) 事業名: 池袋平和通り商店街リノベーション事業(東京都商店街リノベーション事業、未来をつくる商店街事業)
 (2) 対象地: 豊島区池袋 平和通商店街周辺
 (3) 事業目的: 池袋北口地区にある古い商店街「池袋平和通り」からのまちなか再生の推進＝空き店舗の面的活用に向けた調査や地域資源としての「池袋の森」活用、地域全体の開業者を増やし、まちのイメージアップを図るまでのプロセス構築
 (4) 事業内容:
 ① 空き店舗の面的調査と所有者ヒアリング、② 商店街のイメージアップにつながるSNS媒体として池袋西口通信社の立上げ+市民記者育成、③ 商店街の地域資源の魅力発信として池袋の森活用事業『森のカフェ森の図書館』・公園活用インスタレーション(岩瀬諒子)、④ 平和通りの安全安心の環境改善事業として道路無電柱化推進・景観プロジェクト推進(岩瀬諒子と協同)、⑤ 池袋平和通り環境整備協議会設立支援、⑥ 商店街情報発信のための『平和通り版』創刊、⑦ 池袋西口の戦後記録づくりとして『池袋時間』創刊・編集、⑧ 豊島区の若手プレーヤーやNPOとの接点づくり
 ※池袋北口の風俗街・ラブホテル街・アジア系店舗エリアに隣接する古い商店街で治安や環境イメージの改善等のほか、廃業後賃貸されない空き店舗増加、多角的な市街地再生が必要であるとして、東京都事業として支援を続けている。特に、正攻法では土地建物の外国資本化は止められず(一部犯罪組織が関わっていることも伝聞)、無電柱化の検討推進を土木建築アドバイザーとともに進め、豊島区による設計検討予算の確保するまでの協議会の設立や市議会議員の協力体制づくり、無電柱化後のストリート活用の構想づくりなどを商店街とともに推進中(現在は、技術的な制約のため豊島区による検討中断局面)。

【取組事例④】

(1) 事業名 : 泉町・元清水リノベーション事業(中小企業庁:外部人材活用・地域人材育成事業 令和4年度・5年度、守山市支援事業 令和6年度)
 (2) 対象地 : 滋賀県守山市
 (3) 事業目的:
 景観条例指定地区に隣接する再建築不可エリアの再開発検討、エリアリノベーションプロジェクトの伴走支援。
 (4) 事業内容:
 地域資源として重要な三津川(蛍の再生に取り組んでいる小川)沿い、中山道の景観条例指定地区に含まれる地権者20名ほどの地区＝泉町・元清水において、再開発事業もしくは面的なエリアリノベーション事業のどちらかを推進することで、再建築不可地区の再生を検討したいとして、商店会長と商工会議所の事務局担当者による相談があり、中小企業庁の支援事業を活用して伴走支援を行なった。などを踏まえて再開発以外の国交省事業の検討なども並行してすすめられ、最終的に一番コストのかからないエリアリノベーション事業の推進へと舵を切ることとなった。
 ① 地区内の土地所有者へのヒアリング調査、② 面的整備のデザイン検討(再開発、川の集計、エリアリノベーションなどの複数パターンにおいて建築アドバイザーを導入して検討をすすめた)、③ 再開発コンサルとの協業により、通常パターンではない再開発事業の検討、④ 地域関係者が具体像を想像しやすくするための視察先選定や視察の動向(提案:奈良市奈良町+餅井殿センター街、山形市七日町御殿堀、地元発案:小田原市、沼津市)
 (5) 事業による成果:
 地域地権者の個別ヒアリングを助言していたが、なかなか地元関係者では取り組みないとのことで、伴走支援専門家として地権者のヒアリングを3年に渡り実行。地区内の境界線問題や、地権者の年齢マップの割り出し、市街地再開発事業などで合意をまとめない場合のエリアリノベーションの進展のスケジュールづくり、など様々な行動支援材料の検討や提案を実施。商工会議所や商店会長の呼びかけだけで始まった会議体であったが、継続的に地元のことを検討していくチームとして存続することとなり、泉町ふるさと会という名前前で事業検討をすすめている。

※上記以外の取組内容・実績

- ・日野市若手事業者育成+連携推進事業コーディネーター(2020.4～2023.3)
- ・調布市まちづくり審査会 都市計画担当委員/会長(2021.4～現職)
- ・静岡市七間町名店街 外部人材活用・地域人材育成事業 伴走支援アドバイザー(2021.4～2024.3)
- ・調布市都市マスタープラン策定委員会 委員(2022.4～現職)
- ・調布市東部地区まちづくり協議会 タウンマネージャー支援(2023.4～現職)
- ・呉市中央地区 タウンマネージャー支援(2023.4～現職)
- ・内閣府中心市街地活性化評価・推進委員会 委員(2023年度)
- ・中小企業庁 まちづくり人材育成事業有識者委員会 委員(2023年度)